

がんばつてます白石集落

# 水車が醸すコミュニティ

かも

ごつとん、ごつとん——のどかな山間部に響く水車の音。この水車を利用し、そばや米の製粉、各種農業体験を実施しているのが白石集落の皆さんです。同集落では、町内外から人を呼び込み『ここでしかできない体験』を通じて交流を深めることで活性化を図っています。今号は、皆さんの活動をご紹介します。

## 復活した水車小屋を利用

## 体験通して集落を活性化

### ◎白石のシンボル「水車小屋」

約60年ほど前、白石地区では水車が稼動していました。機械化が進む中でその姿を消しました。しかし、平成24年3月に同地区の皆さんの再建を望む声で復活。白石のシンボルとして山間部にたたずんでいます。

### ◎白石集落「ごつとん会」設立

白石集落では、復活した水車小屋を利用して近隣の小学校の児童への農業学習の実施や、各種イベントでの手打ちそばのお

振る舞いなどさまざまな活動を始めています。さらに昨年は「ごつとん会」を設立。会の名前は、水車が動くときに出る『ごつとん、ごつとん』という音から名付けられたそうです。会員になると、そばや野菜の種まきから収穫までを体験できる『農業全部体験』などに参加できます。

これらの活動の目的は、集落の活性化。農業体験には、子どもから大人まで多くの人が訪れ、



小学生が田植え体験



イベントで好評のそばお振る舞い

地区は活気に包まれます。いま、水車小屋を中心に、コミュニティの環が広がりつつあります。

## 白石を人が集うふるさとへ

この活動を先頭に立って行っている越田正一郎さん（白石集落農業生産組合・組合長）。越田さんに、白石集落がこの先目指すものについてお話を伺いました。

―活動を始めたきっかけは？

私が農業委員会にいたときに取り組んでいた遊休農地の解消のために始めました。ただ、自分たちが使う分だけ野菜を作るのではなく、遊休農地を利用して、他の人にも農業体験してもらえらるようなものを作れないかと考えました。そうして始めたのがそばの栽培でした。



越田 正一郎さん

―水車を利用しようと思ったのは？

農業の関係で葛巻町を視察をしたときに、水車を見たことがきっかけです。「これはいい」と思いましたね。水車は白石に昔からあるシンボルの様なものだったので。

―種まきから収穫までの農業体験はいつ思いつきましたか？

集落への助成金を使って行った勉強会です。そのときに来ていただいた先生のお話を聞いて思いついたんです。「ごっつとん会」と会に名前を付けるのも、そのお話を参考にしました。

―これからの目標は？

白石集落を人が集まる場所にする事です。そのために最近ではそばだけでなく、ほかの野菜の栽培も始めているんです。さまざまな野菜をみんなで作って、来てくれた人に農業に関心を持ってもらいたいです。また、ほかの地区にも同じ様な活動が広がればいいと思っています。そうやって地域が活性化していくことがふるさとを守ることに繋がると考えています。

## ごっつとん会の会員募集 農業体験してみませんか



白石集落の「ごっつとん会」では、会員を募集しています。会員になると、そばや野菜の種まきから収穫まで全て体験できる「全部体験」に無料で参加できるほか、体験日やイベント出店などを会報（月1回発行）でお知らせします。

のどかな自然の中でリフレッシュしたい人、野菜づくりを体験して学びたい人、白石集落の人たちと交流したい人、笑顔あふれる楽しい会ですので、まずはお気軽にご参加ください。

▷年会費 4千円

※高校生以下は無料です。

◆申込先・問い合わせ やまだワンダフル体験ビューロー・服部（町水産商工課内 ☎82-3111内線227 / メール info@yamada-fc.org）へどうぞ。

### 皆さんもできます地域活性化

## 興味のある人はご相談を

白石集落の活動を陰から支えるのが、3年前に復興支援員として本町に移住した服部真理さん。昨年度町が設置した体験観光の窓口『やまだワンダフル体験ビューロー』のコーディネーターを務めています。「地域の活性化には、観光客を町に呼び込むだけでなく、町の人たちが交流することが重要」と考え、体験観光の受け入れに取り組み住民のサポートをしながら、町

外からの観光客と地域との間をつなぐ服部さん。「ほかの地区でも白石のような活動が起こればと思っています。外の人を呼んで自分の地域を元気にしたいと考えている皆さん、まずは相談にお越しください」と呼び掛けていました。

◆問い合わせ やまだワンダフル体験ビューロー・服部（町水産商工課内 ☎82-3111内線227）へどうぞ。